

学位被授与者氏名	丁 明林 (てい みょうりん)
論文題目	桃源詩における桃源のイメージ—六朝から唐代までを中心に—
論文審査結果の要旨	<p>六朝から唐代（初唐、盛唐、中唐、晩唐）の桃源詩として 136 首の詩を扱った点、論文中の分析と考察が詳しく丁寧で説得力がある点、また単に各時代や時期にどんなイメージがあるかをまとめるに終わらず、そのイメージを変化ととらえその要因を探った点が評価できる。また問題提起、分析、考察、結論が論理的に叙述できていた点も評価できる。</p> <p>しかしながら以下の点は注意点としてあげることができる。(1)考察の結果得られた桃源のイメージをすべて同列に扱っているが、性質が異なるものがあるのではないだろうか。これらを分けて考察すれば、より丁寧な説明ができたと思われる。(2)今回は「桃源詩」ということで研究が行われたが、詩以外の作品についても言及があったほうがより深く考察でき、説得力も増したと思われる。(3)もう少し丁寧に解釈したほうが良かったと思う詩がある。(4)原文を引用する際に、正字（繁体字）、簡体字、日本の常用漢字体が入り交じっているが、統一できていれば良かった。</p> <p>2023年2月13日に、北九州市立大学北方キャンパス3号館3-326教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(中国言語文化)として十分な内容であると判定した。</p>